

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年8月9日
【四半期会計期間】	第123期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社たけびし
【英訳名】	TAKEBISHI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩田 武久
【本店の所在の場所】	京都市右京区西京極豆田町29番地
【電話番号】	075(325)2111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 経営戦略室長 酒井 進
【最寄りの連絡場所】	京都市右京区西京極豆田町29番地
【電話番号】	075(325)2111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 経営戦略室長 酒井 進
【縦覧に供する場所】	株式会社たけびし滋賀支店 (滋賀県彦根市外町164番地) 株式会社たけびし大阪支店 (大阪市北区堂島二丁目1番27号) 株式会社たけびし東京支店 (横浜市港北区新横浜三丁目18番16号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第122期 第1四半期連結 累計期間	第123期 第1四半期連結 累計期間	第122期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(百万円)	15,126	14,450	63,261
経常利益(百万円)	489	423	1,985
四半期(当期)純利益(百万円)	274	254	1,085
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	201	240	1,137
純資産額(百万円)	15,010	15,981	15,843
総資産額(百万円)	30,743	30,835	31,996
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	18.66	17.27	73.79
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	48.8	51.8	49.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 連結売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載しておりません。
4. 第122期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。なお、重要事象等は存在しておりません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、3月に発生した東日本大震災とそれに伴う原発事故による甚大な被害により、生産活動の低下や個人消費の減少など厳しい環境下で推移いたしました。しかしながら、日を追うごとにサプライチェーンの復旧や生産活動の急速な回復が進むなど、一部に持ち直しの動きも見られました。

このような状況下、当社グループは、顧客への安定供給に最大限努めると共に、過去の緊急対策期間で培った業務効率化の継続・定着を推進いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高144億50百万円（前年同期比4.5%減）、営業利益3億96百万円（前年同期比16.7%減）、経常利益4億23百万円（前年同期比13.5%減）、四半期純利益2億54百万円（前年同期比7.4%減）となりました。

<セグメント別の状況>

産業機器システム分野においては、サーボモータ、プログラマブルコントローラなどのFA機器関連は堅調に推移しましたが、FAシステムで前年同期にあった案件が一段落し、この部門全体では前年同期比6.8%の減となりました。

半導体・デバイス分野においては、デバイスはエンベデッド機器を中心に若干増加したものの、半導体は車載関連が減少したことにより、この部門全体では前年同期比4.9%の減となりました。

これらの結果、FA・デバイス事業においては、売上高103億13百万円（前年同期比6.2%減、構成比71.4%）、営業利益4億76百万円（前年同期比10.0%増）となりました。

社会インフラ分野においては、電子医療機器は病院向け放射線治療装置が大きく増加しましたが、冷住機器のサプライチェーン停滞による影響及びビル設備での工場向け設備案件需要減もあり、この部門全体では前年同期比2.7%減となりました。

情報通信分野では、主力の携帯電話でスマートフォンが好調に推移したことにより増加し、この部門全体では前年同期比3.1%の増となりました。

これらの結果、社会・情報通信事業においては、売上高41億37百万円（前年同期は41億36百万円、構成比28.6%）、営業損失79百万円（前年同期は43百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

当四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ11億60百万円減少し、308億35百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少16億4百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より12億98百万円減少し、148億54百万円となりました。これは主に、未払法人税等の減少6億64百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より1億37百万円増加し、159億81百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加1億51百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,280,000
計	28,280,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,798,600	14,798,600	(株)大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	14,798,600	14,798,600	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	14,798,600	-	2,554	-	3,056

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 83,600	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,713,600	147,136	同上
単元未満株式	普通株式 1,400	-	同上
発行済株式総数	14,798,600	-	-
総株主の議決権	-	147,136	-

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社所有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄には証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

なお「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社たけびし	京都市右京区西京極豆田町29番地	83,600	-	83,600	0.56
計	-	83,600	-	83,600	0.56

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,452	1,992
受取手形及び売掛金	18,482	16,878
有価証券	20	10
商品	3,400	4,565
仕掛品	31	39
繰延税金資産	369	203
その他	536	495
貸倒引当金	121	114
流動資産合計	25,171	24,071
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,435	1,426
車両運搬具(純額)	0	0
土地	1,731	1,731
リース資産(純額)	4	4
建設仮勘定	50	-
その他(純額)	69	118
有形固定資産合計	3,292	3,280
無形固定資産		
のれん	19	10
ソフトウェア	23	139
ソフトウェア仮勘定	112	-
その他	20	20
無形固定資産合計	174	170
投資その他の資産		
投資有価証券	1,883	1,845
長期貸付金	10	9
繰延税金資産	85	82
その他	1,761	1,760
減価償却累計額	100	108
貸倒引当金	281	275
投資その他の資産合計	3,358	3,313
固定資産合計	6,825	6,764
資産合計	31,996	30,835

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,273	10,914
短期借入金	1,515	1,790
1年内返済予定の長期借入金	-	100
未払金	953	760
リース債務	1	1
未払法人税等	719	54
賞与引当金	499	262
役員賞与引当金	-	13
その他	399	288
流動負債合計	15,362	14,187
固定負債		
長期借入金	100	-
リース債務	3	3
繰延税金負債	71	46
再評価に係る繰延税金負債	10	10
退職給付引当金	412	419
役員退職慰労引当金	107	103
資産除去債務	22	22
その他	63	63
固定負債合計	790	667
負債合計	16,153	14,854
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,554	2,554
資本剰余金	3,133	3,133
利益剰余金	11,003	11,155
自己株式	23	23
株主資本合計	16,668	16,820
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	386	361
土地再評価差額金	1,138	1,138
為替換算調整勘定	73	62
その他の包括利益累計額合計	825	839
純資産合計	15,843	15,981
負債純資産合計	31,996	30,835

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	15,126	14,450
売上原価	13,237	12,649
売上総利益	1,888	1,800
販売費及び一般管理費	1,412	1,404
営業利益	475	396
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	13	18
仕入割引	7	7
受取賃貸料	16	16
為替差益	0	2
その他	8	10
営業外収益合計	48	56
営業外費用		
支払利息	3	4
売上割引	14	11
賃貸収入原価	15	12
その他	0	1
営業外費用合計	34	29
経常利益	489	423
特別利益		
投資有価証券売却益	-	28
特別利益合計	-	28
特別損失		
固定資産除売却損	0	2
投資有価証券評価損	-	7
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12	-
特別損失合計	12	10
税金等調整前四半期純利益	477	442
法人税、住民税及び事業税	63	29
法人税等調整額	139	159
法人税等合計	202	188
少数株主損益調整前四半期純利益	274	254
四半期純利益	274	254

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	274	254
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	74	24
為替換算調整勘定	1	11
その他の包括利益合計	73	13
四半期包括利益	201	240
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	201	240
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）
（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用） 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準委員会平成21年12月4日企業会計基準第24号）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会平成21年12月4日企業会計基準適用指針第24号）を適用しております。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）
該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書関係）
該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）
減価償却費	65百万円	57百万円
のれんの償却額	8百万円	8百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月12日 取締役会	普通株式	73	5.0	平成22年3月31日	平成22年6月10日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	103	7.0	平成23年3月31日	平成23年6月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	F A ・ デバイス事業	社会 ・ 情報通信事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	10,990	4,136	15,126
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0
計	10,990	4,136	15,126
セグメント利益	432	43	475

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	475
セグメント間取引消去	-
四半期連結損益計算書の営業利益	475

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	F A ・ デバイス事業	社会 ・ 情報通信事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	10,313	4,137	14,450
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0
計	10,313	4,137	14,450
セグメント利益又は損失()	476	79	396

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	396
セグメント間取引消去	-
四半期連結損益計算書の営業利益	396

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）
1株当たり四半期純利益金額	18円66銭	17円27銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額（百万円）	274	254
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額（百万円）	274	254
普通株式の期中平均株式数（千株）	14,715	14,714

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

平成23年5月13日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....103百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....7円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年6月13日

(注) 平成23年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8 月 5 日

株式会社たけびし
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堤 佳史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 尾 仲 伸 之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社たけびしの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社たけびし及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。